

## 特別の教育課程編成方針等について

山梨県		
学校名	管理機関名	開始年度
山梨県立甲府第一高等学校	山梨県教育委員会	令和8年度

### I 特別の教育課程の概要

(1) 教科名：「探究」

(2) 目標：

#### 【知識及び技能】

自ら課題を発見し、分析・研究してその解決を図っていく中で、各分野との関連、実社会との結び付きが図られた専門的知識・技能を身に付ける。

#### 【思考力，判断力，表現力等】

協働的に探究する活動を通して、論理的思考力、判断力、実践的コミュニケーション能力を育成する。

#### 【学びに向かう力，人間性等】

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

(3) 対象：本校探究科1年生～3年生

(4) 内容：

#### 【新設する科目】「グローバル探究Ⅰ」「グローバル探究Ⅱ」「グローバル探究Ⅲ」

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に令和7年度まで指定され、課題探究型の学習の推進という目標達成のために、教科「探究」を設置し事業を推進してきた。教科「探究」には学校設定科目「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を課題探究の中心的科目と位置づけ設置した。WWLの事業終了に伴い、令和8年度より同内容をさらに発展拡充させていくため、「グローバル探究Ⅰ」では、全員に探究のプロセスに関する知識・技能を身に付けるために、「理数探究基礎」の教科書を使用し、「理数探究基礎」の内容を含むように実施する。したがって、「グローバル探究Ⅰ」の2単位のうち1単位は「理数探究基礎」を代替し、そのことにより「総合的な探究の時間」1単位を代替することとする。同様に、学校設定科目「グローバル探究Ⅱ」2単位のうち1単位、「グローバル探究Ⅲ」の1単位を「総合的な探究の時間」を代替することとする。

## 2 地域や学校の特色と、その特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

平成 26 年度に SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受け、令和 2 年度からは地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）の指定校として、また、令和 5 年度からは WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の指定校として「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成に取り組んできた。

その中心となるカリキュラム「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（探究科の学校設定科目）は、SGH 指定校の際に設置し、それ以来 12 年間にわたりカリキュラムを開発した。特に、平成 31 年度に構築した運営指導委員会及びコンソーシアム推進協議会からの助言・支援、多様な協働機関と連携したカリキュラムは、生徒の探究力を高めるために欠かせないものであった。WWL 事業においては関係機関との協働体制を維持して「山梨から世界を変えていく人材」を育成するため、特に、AL ネットワークの拡大を図り、産学官民のコンソーシアムや海外連携校と協働して、主体的に探究をより深化させることと、英語で議論する力の育成に力点を置き取り組んだ。

その中で、「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」においては、外国人講師の指導による海外連携校との合同プログラムを加えた。また、英語で議論する力の育成に向けコロナ禍で中断していた海外研修や短期留学を再開し、現地での発表と意見交換を目標に生徒たちに取り組ませた。単位数は 1 年次 2 単位、2 年次 2 単位、3 年次 1 単位であるが、そのうちの 1 単位は教育課程の特例を活用し「総合的な探究の時間」の代替により実施してきた。WWL 事業の指定は令和 7 年度で終了となるが、これまでに開発してきた「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」での探究及び英語で議論する力の向上をより一層発展させたいと考えている。

一方、12 年間の取り組みから理系的な課題設定や探究方法に関する取り組みを強化することが課題として浮かび上がってきた。そこで、「グローバル探究Ⅰ」の中で「理数探究基礎」の内容を扱うことで課題設定や探究方法に関する課題を解決し、さらに、社会科学的な探究においても統計的手法等を取り入れるなど、これまで以上に説得力のある探究を行う。

「グローバル探究Ⅱ・Ⅲ」ではこれまで開発してきた地域の課題を切り口に、学校内外の様々な他者と協働してその解決を図る取り組みを継続する。

これらの取り組みにより、グローバルな視野を持ち持続可能な社会づくりを牽引する人材、具体的な提案や活動により「やまなし創世」に貢献する人材を引き続き育成するため、特別の教育課程を編成する。